

厚生労働科学研究補助金
医療技術総合評価研究事業

新医師臨床研修制度における
研修医指導に関する研究
(H17-医療-034)

平成17年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 水嶋 春朔

平成18(2006)年3月

目 次

I. 総括研究報告

新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究	1
水嶋 春朔	
資料 1 新医師臨床研修制度における 指導ガイドライン《試行版》目次	5
資料 2 新医師臨床研修制度における 指導ガイドライン作成関係者	9

II. 分担研究報告

1. 医師臨床研修指導ガイドライン構成に関する検討	19
大滝 純司	
資料 1 「指導のポイントと研修されるべき具体的目標」執筆依頼時に 執筆者に提示した参考例	25
資料 2 「典型症例の時系列表」執筆依頼時に 執筆者に提示した参考例	27
2. 医師臨床研修指導ガイドライン試行版作成の手順	28
水嶋 春朔、大滝 純司	
3. 医療安全ガイドラインの作成	32
種田 憲一郎	
資料 1 医療安全教育指導者研修	35
資料 2 研修医への医療安全教育ワーク・ショップ (Learning How to Teach Patient Safety)	36
4. 医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修からみた臨床研修の課題	39
石川 雅彦	
資料 1 平成 17 年度医師臨床研修制度・研修管理委員会・ 委員長研修プログラム	44
資料 2 「バズ・セッション」における議論内容	45
5. 「地域保健・医療」研修プログラムの開発	50
曾根 智史	
6. 臨床研修指導における診療ガイドラインの活用に関する検討	55
中山 健夫、水嶋 春朔	

III. 研究成果の刊行物・別刷及び成果物

新医師臨床研修制度における指導ガイドライン（試行版）	61
----------------------------	----

I. 総括研究報告

主任研究者 水嶋 春朔

新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究

主任研究者 水嶋 春朔 国立保健医療科学院 人材育成部長

研究要旨：

新医師臨床研修制度にて必修とされている7分野について、指導医あるいは上級医が研修医を指導する際の指導方法について研究を行い、それぞれの診療科において、指導ガイドラインを整備し、新制度の基本的考え方の実現、研修指導體制の充実、研修医の診療能力の向上、指導医の教育能力の向上に資することを目的とした。

関係各学会・団体の142人の執筆者の協力を得て、第1章指導體制・指導環境、第2章指導方法、第3章評価方法、第4章到達目標の解説、資料編から構成される臨床研修に関する208項目からなる「新医師臨床研修制度における研修指導ガイドライン（試行版）」（全649ページ、6MB）を作成し、国立保健医療科学院のHPに掲載した。

アクセスカウンターを設置した平成17年8月以来、平成18年3月20日10:00現在、これまで30,210件のアクセスがあり、多くの関係者に活用されている。

今後、「新医師臨床研修制度における研修指導ガイドライン（試行版）」の利用者からのフィードバックなどを参考に、必要な改善及び修正を行なっていくことが重要である。

分担研究者氏名・所属機関名・職名

大滝純司・東京医科大学総合診療科・教授

曾根智史・国立保健医療科学院公衆衛生政策部・部長

石川雅彦・国立保健医療科学院政策科学部安全科学室・室長

種田憲一郎・国立保健医療科学院政策科学部・主任研究官

川南勝彦・国立保健医療科学院公衆衛生政策部・主任研究官

研究協力者氏名・所属機関名・職名

朔 義亮・雪ノ聖母会 聖マリア病院健康科学センター診療部・部長

新保卓郎・国立国際医療センター研究所・医療生態学研究部長

中山健夫・京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野・助教授

名郷直樹・（社）地域医療振興協会地域医療研修センター・センター長

前野哲博・筑波大学附属病院総合臨床教育センター・助教授

A. 研究目的

新医師臨床研修制度にて必修とされている7分野について、指導医あるいは上級医が研修医を指導する際の指導方法について研究をおこない、それぞれの診療

科において、指導ガイドラインを整備し、新制度の基本的考え方の実現、研修指導体制の充実、研修医の診療能力の向上、指導医の教育能力の向上に資することを目的とした。

また国立保健医療科学院にて、平成 17 年度施行された、医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修（4 回施行）に関連して得られた結果から、臨床研修の課題を検討した。

B. 研究方法

本研究では、「医師臨床研修指導ガイドライン作成検討会」（座長：齋藤宣彦聖マリアンナ医科大学教授）の下に「医師臨床研修指導ガイドライン作成検討会作業班」が設置された。

作業班のメンバーを以下に示す。

大滝純司（班長）

東京医科大学病院総合診療科教授

川南勝彦

国立保健医療科学院公衆衛生政策部主任研究官

朔 義亮

雪ノ聖母会 聖マリア病院健康科学センター診療部長

新保卓郎

国立国際医療センター研究所医療生態学研究部長

名郷直樹

（社）地域医療振興協会地域医療研修センター長

前野哲博

筑波大学附属病院総合臨床教育センター一助教授

ガイドラインを提供する媒体、構成の基本方針、全体構成、項目などを関係者からのヒヤリングおよび討議を中心に検討した。

C. 結果

1. 「新医師臨床研修制度における研修指導ガイドライン（試行版）」の作成

（1）媒体

ガイドラインを提供する媒体として、冊子を配付する形と、インターネット経由で web page（ホームページ）を公開する形の二者について検討した。情報の更新や追加が冊子よりも迅速に容易におこない得る点、必要な情報への移動や検索機能を比較的容易に付加できる点などの利点により、必要に応じて紙に容易に印刷可能な形式（PDF）のファイルをホームページからダウンロードできるようにして公開する方針とした。

（2）構成の基本方針

「臨床研修の到達目標」に沿って、その目標に到達するために有用な指導方法及び評価について記述することを主な内容とする。主な利用者およびそれ以外の利用者については、研修医の指導にあたる指導医や医療チームのスタッフが主たる利用者、研修医や医学生、あるいは患者やその家族など、臨床研修に関心のある人が誰でも利用可能とした。

研修医を指導する際に現場の指導医等が必要としている事項や、現場での指導が混乱しがちな事項について、作業班の各メンバーを通して情報収集と検討をおこない、以下の事項へ対応する必要性が高いと判断した。

- ①指導の具体例
- ②専門とする領域以外の指導方法
- ③各専門領域でのプライマリ・ケア能力
- ④研修スケジュールの具体例
- ⑤評価の具体的基準

(3) 全体構成

全体構成の概要を目次に従って示す。なお、詳細については、本報告書の資料ならびにホームページ(国立保健医療科学院のHP (<http://www.niph.go.jp>))を参照されたい。

・はじめに

臨床研修の基本理念や第150回国会参議院国民福祉委員会附帯決議、そして本ガイドラインの特徴の解説などを掲載した。

・本編

本編は四章から成る。目次の概要を以下に示す。

第1章 指導体制・指導環境

- I 指導体制
- II 各種研修スケジュール例
- III オリエンテーション
- IV 指導医
- V 指導調整
- VI 学習環境整備

第2章 指導方法

- I 理論編
- II 実践編

第3章 評価方法

- I 評価の理論と方法
- II コンピテンシーモデルを用いた「行動目標」の評価

第4章 到達目標の解説

- I 行動目標の解説
- II 経験目標の解説
 - A. 経験すべき診察法・検査・手技
 - B. 経験すべき症状・病態・疾患
 - C. 特定の医療現場の経験
- ・資料編

資料編には、新医師臨床研修関連の通知、安全管理やEBMなどの領域の参考資料を掲載した。

2. 医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修からみた臨床研修の課題の検討

同研修施行前に、事前アンケートとして、臨床研修病院927施設に、臨床研修における研修システム、経営メリット、法規遵守、医療安全対応、指導体制、研修医のメンタルヘルス、および研修の評価・修了基準に関して質問紙を郵送し、このうち469施設(回収率50.6%)から回答を得た。

また、同研修が行われた際に、受講者参加型の「バズ・セッション」の時間を設け、医師臨床研修の現状を課題に関して、研修医獲得、研修実施上の問題点、研修医の処遇、研修医の評価、ならびに研修後の評価に関して、グループディスカッションを行って、その課題の現状と工夫に関して議論と意見交換を行った。

両検討の結果から、特に、優秀な研修医を獲得するための方策や指導医の負担増大に起因したモチベーションとインセンティブの課題、ならびに処遇の差や研修評価の困難性、さらには研修修了後の対応に関して、様々な課題の浮き彫りとそれに対する施設独自の対応が示された。

同研修におけるこれらの検討から、医

師臨床研修制度の様々な課題と対応策が得られ、その結果は、対応に苦慮する研修病院の取り組みに資すると考える。

D. 考察

平成16年4月に臨床研修が義務化されてから、この平成18年3月で2年が経過し、新医師臨床研修制度の下で最初の研修修了生が生まれることになる。

新制度の基本的考え方は次の3つである。

- ① 医師としての人格を涵養する、
- ② プライマリ・ケアへの理解を深め、患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力を習得する、
- ③ アルバイトせずに研修に専念できる環境を整備する

この基本的考え方については国会の場においてもさまざまな議論がなされ、平成12年11月の参議院国民福祉委員会において、「医師および歯科医師の臨床研修については、インフォームドコンセントなどの取り組みや人権教育を通じて医療倫理の確立を図るとともに、精神障害や感染症への理解を進め、更にプライマリ・ケアやへき地医療への理解を深めることなど全人的、総合的な制度へと充実すること。その際、臨床研修を効果的に進めるために指導體制の充実、研修医の身分の安定および労働条件の向上に努めること。」という付帯決議がなされた。

平成17年9月14日現在、臨床研修病院として2,163施設（単独・管理型および協力型）が指定されており、指導医の数は2万人以上とされているが、これまで研修の実施および研修医の指導に関する

標準的なマニュアルや資料が体系だつて整備されてこなかったため、本ガイドラインは多くの関係者が利用しており、平成18年3月20日現在、これまで30,000件のアクセスを超えている。

今後、国立保健医療科学院で実施される医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修の機会などや臨床研修関係者に対する調査を通して、臨床研修指導にかかわる課題を抽出し、「新医師臨床研修制度における研修指導ガイドライン（試行版）」の必要な改善及び修正を行なっていき、完成版の作成を目指していくことが重要である。

E. 結論

新医師臨床研修制度にて必修とされている7分野について、指導医あるいは上級医が研修医を指導する際の指導方法について研究をおこない「新医師臨床研修制度における研修指導ガイドライン（試行版）」を作成し、国立保健医療科学院のHPに掲載した。多くの利用者があり、さらに改善、改良をはかることが重要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

資料 1

新医師臨床研修制度における指導ガイドライン《 試行版 》 目次

総項目数 208項目／総執筆者数 142名／総ページ数 649ページ

＜ 項目 ＞		＜ 執筆者および執筆協力者 ＞		＜ ページ ＞	
第1章 指導体制・指導環境	22項目	20名		46ページ	
I 指導体制					
1. 管理者		野田裕司、村岡 亮		1-1	
2. 研修管理委員会		野田裕司、村岡 亮		1-2	
3. プログラム責任者		野田裕司、村岡 亮		1-3	
4. 研修実施責任者		野田裕司、村岡 亮		1-4	
5. 臨床研修指導医		野田裕司、村岡 亮		1-4	
6. 研修医の指導における医師以外の医療スタッフの役割		野田裕司、村岡 亮		1-5	
II 各種研修スケジュール例					
1. 研修期間全体		川南勝彦		1-6	
2. 研修科単位(月間・週間単位でのスケジュールを含む)		「特定の医療現場の経験」における各執筆者		1-7	
III オリエンテーション					
1. 意義		正田良介、木村昭夫		1-18	
2. オリエンテーション例		正田良介、木村昭夫		1-18	
IV 指導医					
1. 指導医の選任と契約		村岡 亮		1-23	
2. 指導医の研修		村岡 亮		1-23	
3. 指導医間の関係		村岡 亮		1-24	
4. 指導体制に対する財政的支援		野田裕司		1-24	
V 指導調整					
1. 研修内容の確認と調整		名郷直樹、大滝純司		1-25	
2. 各科・施設間での指導の調整		川南勝彦		1-30	
3. 臨床研修の中断及び未修了		村岡 亮		1-30	
VI 学習環境整備					
1. 労働・研修時間		中村泰久		1-32	
2. 研修に係る各種手続き		前野哲博		1-35	
3. トラブルへの対応		前野哲博		1-37	
4. 研修医の福利厚生		前野哲博		1-44	
5. 研修の充実		前野哲博		1-45	
第2章 指導方法	21項目	5名		36ページ	
I 理論編					
1. 望ましい学習活動の特徴		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-1	
2. 教育目標の分類		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-2	
3. 学習方略		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-3	
4. SPICES model		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-5	
5. 臨床教育の7つのポイント		伴 信太郎		2-6	
6. 臨床教育の6つの技法		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-9	
7. 指導医の役割		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-11	
8. 医療における過誤可能性		大滝純司		2-14	
9. 望ましいフィードバック技法		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-15	
10. 「事実」と「意味づけ」と「一般論」		大滝純司		2-17	
11. 面接技法を学習する必要性		大滝純司		2-18	
12. 患者に対する医療者の態度類型		大滝純司		2-19	
13. 共感の伝え方		大滝純司		2-20	
14. 人的資源としての標準模擬患者		臨床研修指導医講習会資料等より改変		2-21	
15. プライマリ・ケアの概念整理(日本)		大滝純司		2-24	
16. わが国の一般住民における健康問題の発生頻度と対処行動		福井次矢		2-25	
II 実践編					
1. 指導方法の実践		名郷直樹		2-28	
2. 研修医向けカンファレンスの実践		名郷直樹		2-30	
3. シミュレーションを利用した教育		名郷直樹		2-32	
4. 臨床現場での教育方法		名郷直樹		2-33	
5. 指導の実例		名郷直樹		2-35	
第3章 評価方法	14項目	4名		25ページ	
I 評価の理論と方法					
1. 教育評価		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-1	
2. 教育評価の原則		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-2	
3. 教育評価の方法		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-4	
4. 評価が持つ属性(5条件)		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-5	
5. 測定しようとする行動と評価方法		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-6	
6. 形成的評価と総括的評価		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-7	
7. 客観的臨床能力試験(OSCE)		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-10	
8. 態度・習慣・技能の評価		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-15	
9. 臨床研修における情意領域(態度)の評価		臨床研修指導医講習会資料より改変		3-16	
10. 360度評価		大滝純司		3-17	
11. ポートフォリオ評価		田中克之		3-18	
II コンピテンシーモデルを用いた「行動目標」の評価					
1. コンピテンシーについて		日下隼人		3-21	
2. 医療人として必要な基本姿勢・態度		日下隼人		3-21	
3. 評価項目作成の実践		日下隼人		3-22	

新医師臨床研修制度における指導ガイドライン《 試行版 》 目次

総項目数 208項目 / 総執筆者数 142名 / 総ページ数 649ページ

＜ 項目 ＞	＜ 執筆者および執筆協力者 ＞	＜ ページ ＞
第4章 到達目標の解説		
(11) 眼・視覚系疾患		
B ①屈折異常(近視、遠視、乱視)	横井則彦	4-333
B ②角結膜炎	天野史郎	4-336
B ③白内障	黒坂大次郎	4-339
B ④緑内障	山本哲也	4-342
⑤糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化	飯田知弘	4-346
(12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患		
B ①中耳炎	山嵜 達也	4-349
②急性・慢性副鼻腔炎	春名 真一	4-352
B ③アレルギー性鼻炎	大久保 公裕	4-356
④扁桃の急性・慢性炎症性疾患	西野 宏	4-359
⑤外耳道・鼻腔・咽喉・喉頭・食道の代表的な異物	三輪 高喜	4-363
(13) 精神・神経系疾患		
①症状精神病	関 健、保坂 隆	4-366
A ②痴呆(血管性痴呆を含む)	関 健、水木 泰、三木 哲郎	
③アルコール依存症	関 健	
A ④気分障害(うつ病、躁鬱病を含む)	関 健、小島 卓也	
A ⑤統合失調症(精神分裂病)	関 健、朝田 隆	
⑥不安障害(パニック症候群)	関 健	
B ⑦身体表現性障害、ストレス関連障害	関 健	
(14) 感染症		
B ①ウイルス感染症 (インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)	江村 正、渡邊 孝宏	4-380
B ②細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)	江村 正	4-387
B ③結核	寺本 信嗣	4-390
④真菌感染症(カンジダ症)	二木 芳人	4-392
⑤性感染症	斉藤 史郎	4-397
⑥寄生虫疾患	大西 健児	4-400
⑦HIV/AIDS(←外科系作業半会議で追加意見)	山田 治	4-404
(15) 免疫・アレルギー疾患		
①全身性エリテマトーデスとその合併症	高林 克日己、渡邊 孝宏	4-409
B ②慢性関節リウマチ	天野 宏一	4-412
B ③アレルギー疾患	西川 正憲	4-415
(16) 物理・化学的因子による疾患		
①中毒(アルコール、薬物)	奥村 徹	4-419
②アナフィラキシー	木村 昭夫	4-423
③環境要因による疾患(熱中症、寒冷による障害)	木村 昭夫	4-426
B ④熱傷	門野 岳史	4-430
(17) 小児疾患		
B ①小児けいれん性疾患	大澤 真木子	4-432
B ②小児ウイルス感染症 (麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)	森内 浩幸	4-439
③小児細菌感染症	尾内 一信	4-445
B ④小児喘息	森川 昭廣	4-453
⑤先天性心疾患	中澤 誠	4-456
(18) 加齢と老化		
B ①高齢者の栄養摂取障害	伊賀瀬 道也	4-464
B ②老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)	伊賀瀬 道也	4-467
C 特定の医療現場の経験		
1) 救急医療	有賀 徹、木村真一、木村昭夫	4-470
2) 予防医療	川南勝彦	4-474
3) 地域保健・医療		
①保健所	川南勝彦	4-475
②介護老人保健施設・社会福祉施設	木下牧子	4-492
③-1 中小病院・診療所: 中小病院プログラム例	高山哲夫、宮城良充	4-499
③-2 中小病院・診療所: 診療所プログラム例	今村 聡	4-508
④へき地・離島診療所	名郷直樹	4-515
⑤各種検診・健診の実施施設	福田崇典、齋藤貴生	4-521
⑥赤十字社血液センター	田所憲治、半田 誠	4-527
4) 周産・小児・成育医療	川南勝彦、田中哲郎	4-531
5) 精神保健・医療	関 健	4-535
6) 緩和・終末期医療	木澤義之	4-539

新医師臨床研修制度における指導ガイドライン << 試行版 >> 目次

総項目数 208項目 / 総執筆者数 142名 / 総ページ数 649ページ

< 項目 >		< 執筆者および執筆協力者 >	< ページ >
第4章 到達目標の解説			
B 経験すべき症状・病態・疾患		大滝純司	4-119
<ul style="list-style-type: none"> ・A: 疾患については入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出すること。 ・B: 疾患については、外来診療又は受け持ち入院患者(合併症含む)で自ら経験すること。 ・外科症例(手術含む)を1例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等について症例レポートを提出すること。 			
(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患			
B	①貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)	岡田 定	4-121
	②白血病	積田 俊也	4-124
	③悪性リンパ腫	佐野 文明	4-128
	④出血傾向・紫斑病(播種性血管内凝固症候群: DIC)	浅野 嘉延	4-132
(2) 神経系疾患			
A	①脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)	川尻 真和	4-135
	②認知症性疾患	三木哲郎	4-139
	③脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)	片山 容一	4-142
	④変性疾患(パーキンソン病)	川尻 真和	4-146
	⑤脳炎・髄膜炎	吉井 文均	4-149
(3) 皮膚系疾患			
B	①湿疹・皮膚炎(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎)	佐伯秀久	4-154
B	②蕁麻疹	菅谷 誠	4-157
	③薬疹	小宮根真弓	4-159
B	④皮膚感染症	常深祐一郎	4-163
(4) 運動器(筋骨格)系疾患			
B	①骨折	澤口 毅	4-167
B	②関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷	高倉 義典	4-170
B	③骨粗鬆症	小川 純人、大内 尉義	4-186
B	④脊柱障害(腰椎間板ヘルニア)	四宮 謙一	4-189
(5) 循環器系疾患			
A	①心不全	木原 康樹	4-192
B	②狭心症、心筋梗塞	宮崎 俊一	4-196
	③心筋症	矢崎 善一	4-201
B	④不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈)	小澤 秀樹	4-205
	⑤弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)	川名 正敏	4-212
B	⑥動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)	家崎 貴文、古森 公浩	4-216
	⑦静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)	中村真潮	4-223
A	⑧高血圧症(本態性、二次性高血圧症)	小原 克彦	4-226
(6) 呼吸器系疾患			
B	①呼吸不全	久保 恵嗣	4-230
A	②呼吸器感染症(急性上気道炎、気管支炎、肺炎)	宮下 修行	4-233
B	③閉塞性・拘束性肺疾患(気管支喘息、気管支拡張症)	寺本 信嗣	4-238
	④肺循環障害(肺塞栓・肺梗塞)	吉澤 弘久、田中 純太	4-243
	⑤異常呼吸	江村 正	4-247
	⑥胸膜、縦隔、横隔膜疾患(自然気胸、胸膜炎)	江村 正	4-249
	⑦肺癌	寺本 信嗣	4-252
(7) 消化器系疾患			
A	①食道・胃・十二指腸疾患 (食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎)	石塚 達夫	4-255
B	②小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻)	名川 弘一	4-259
	③胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)	小松 眞史	4-264
B	④肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌)	上裕 俊法	4-267
B	肝疾患(肝硬変、肝癌)	福沢 嘉孝	4-274
	⑤膵臓疾患(急性・慢性膵炎)	元雄 良治	4-277
B	⑥横隔膜・腹壁・腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア)	近藤 哲	
(8) 腎・尿路系疾患			
A	①腎不全(急性・慢性腎不全、透析)	宮崎 正信	4-285
	②原発性糸球体腎炎 (急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群)	和田 淳	4-288
	③全身性疾患による腎障害(糖尿病性腎症)	渡辺 毅	4-292
B	④泌尿器科的腎・尿路疾患(尿路結石、尿路感染症)	斉藤 史郎	4-296
(9) 妊娠分娩と生殖系疾患			
B	①妊娠分娩 (正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥)	平原 史樹	4-302
	②女性生殖器及びその関連疾患(無月経、思春期・更年期障害)	平原 史樹	4-304
B	③男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍)	斉藤 史郎	4-306
(10) 内分泌・栄養・代謝系疾患			
	①視床下部・下垂体疾患(下垂体機能障害)	肥塚 直美	4-311
	②甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)	山田 正信	4-315
	③副腎不全	太田 昌宏	4-320
A	④糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖)	今川 彰久	4-323
B	⑤高脂血症	横手 幸太郎	4-327
	⑥蛋白及び核酸代謝異常(高尿酸血症)	遠藤 正之	4-330

新医師臨床研修制度における指導ガイドライン《 試行版 》 目次

総項目数 208項目／総執筆者数 142名／総ページ数 649ページ

	< 項目 >	< 執筆者および執筆協力者 >	< ページ >
第4章 到達目標の解説	151項目	121名	542ページ
I 行動目標の解説			
1. 患者－医師関係	水木 泰		4-1
2. チーム医療	関 健		4-3
3. 問題対応能力	福岡敏雄、新保卓郎		4-7
4. 安全管理	種田憲一郎		4-26
5. 症例呈示	松村理司		4-31
6. 医療の社会性	関 健、村岡 亮、川南勝彦、水嶋春朔		4-36
II 経験目標の解説			
A 経験すべき診察法・検査・手技			
1. 経験目標の達成度に関する判断基準の考え方	大滝純司		4-51
2. 医療記録：臨床病理検討会(CPC)レポート	田村浩一		4-53
3. 基本的な臨床検査			
病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、 A：自ら実施し、結果を解釈できる。 その他：検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。			
1)一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む)	江村 正		4-65
2)便検査(潜血、虫卵)	江村 正		4-66
3)血算・白血球分画	江村 正		4-67
A 4)血液型判定・交差適合試験	半田 誠		4-68
A 5)心電図	江村 正		4-69
A 6)動脈血ガス分析	江村 正		4-70
7)血液生化学的検査	江村 正		4-71
8)血液免疫血清学的検査	江村 正		4-72
9)細菌学的検査・薬剤感受性検査	江村 正		4-73
10)肺機能検査	佐藤 誠、中山秀章		4-74
11)髄液検査	高橋一夫		4-75
12)細胞診・病理組織検査	川田浩志、米倉修司		4-76
13)内視鏡検査(呼吸器)	酒井 洋		4-77
内視鏡検査(消化器)	中村哲也		4-78
A 14)超音波検査	竹中 克		4-79
15)単純X線検査	大久保 敏之		4-80
16)造影X線検査	大久保 敏之		4-81
17)X線CT検査	大久保 敏之		4-82
18)MRI検査	大久保 敏之		4-83
19)核医学検査①SPECT	油野 民雄		4-84
核医学検査②PET	伊藤 健吾		4-88
20)神経生理学的検査	川尻 真和		4-90
4. 基本的手技			
1)気道確保	箕輪 良行		4-92
2)人工呼吸	箕輪 良行		4-93
3)心マッサージ	箕輪 良行		4-94
4)圧迫止血法	箕輪 良行		4-95
5)包帯法	石黒 隆		4-96
6)注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)	江村 正		4-98
7)採血法(静脈血、動脈血)	江村 正		4-99
8)穿刺法(腰椎)	江村 正		4-100
9)穿刺法(胸腔、腹腔)	江村 正		4-101
10)導尿法	斉藤 史郎		4-102
11)ドレーン・チューブ類の管理	大久保 憲		4-103
12)胃管の挿入と管理	大久保 憲		4-105
13)局所麻酔法	大久保 憲		4-106
13)局所麻酔法<確認>	尹 浩信		
14)創部消毒とガーゼ交換	大久保 憲		4-107
創部消毒とガーゼ交換<確認>	尹 浩信		4-108
15)簡単な切開と排膿	永井 秀雄、大久保 憲、廣橋 一裕		4-108
簡単な切開と排膿<確認>	尹 浩信		4-109
16)皮膚縫合法	高松 英夫、大久保 憲、廣橋 一裕		4-109
皮膚縫合法<確認>	尹 浩信		
17)軽度の外傷・熱傷の処置	赤木 将男		4-110
18)気管挿管	箕輪 良行		4-112
19)除細動	箕輪 良行		4-113
20)感染制御	大久保 憲		4-114
21)外来における外科処置	大久保 憲		4-116
22)輸血(追加項目)	半田 誠		4-118

平成18年 2月14日現在

医師臨床研修指導ガイドライン作成検討会（厚生労働省医政局医事課長私的検討会）

- 倉本 秋 高知大学医学部附属病院長
- 齋藤宣彦 聖マリアンナ医科大学教授（○、座長）
- 堺 常雄 聖隷浜松病院院長
- 篠崎英夫 国立保健医療科学院長
- 橋本信也 日本医師会常任理事

医師臨床研修指導ガイドライン作成検討会 作業班

- 大滝純司 東京医科大学病院総合診療科教授（○、班長）
- 川南勝彦 国立保健医療科学院公衆衛生政策部主任研究官
- 朔 義亮 雪ノ聖母会 聖マリア病院健康科学センター診療部長
- 新保卓郎 国立国際医療センター研究所医療生態学研究部長（前京都大学医学部附属病院総合診療部助教授）
- 名郷直樹 （社）地域医療振興協会地域医療研修センター長
- 前野哲博 筑波大学附属病院総合臨床教育センター助教授

平成16年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）**医師臨床研修指導医ガイドラインに関する研究班**

- 加藤則子 国立保健医療科学院研修企画部長
- 川南勝彦 国立保健医療科学院公衆衛生政策部主任研究官
- 曾根智史 国立保健医療科学院公衆衛生政策部長（○、主任研究者）
- 種田憲一郎 国立保健医療科学院政策科学部主任研究官
- 林 謙治 国立保健医療科学院次長

平成17年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業**新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究班**

- 石川雅彦 国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長
- 大滝純司 国立保健医療科学院人材育成部客員研究員（東京医科大学病院総合診療科教授）
- 岡本悦司 国立保健医療科学院経営科学部経営管理室長
- 加藤則子 国立保健医療科学院研修企画部長
- 川南勝彦 国立保健医療科学院公衆衛生政策部主任研究官
- 小山秀夫 国立保健医療科学院経営科学部長
- 鈴木康裕 国立保健医療科学院企画調整主幹
- 曾根智史 国立保健医療科学院公衆衛生政策部長
- 橘とも子 国立保健医療科学院人材育成部主任研究官
- 田中哲郎 国立保健医療科学院生涯保健部長
- 種田憲一郎 国立保健医療科学院政策科学部主任研究官
- 長谷川敏彦 国立保健医療科学院政策科学部長
- 林 謙治 国立保健医療科学院次長
- 水嶋春朔 国立保健医療科学院人材育成部長（○、主任研究者）

臨床研修指導ガイドライン作成協力関係団体および担当者

内科系関係学会

日本内科学会	石橋大海	独立法人国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター長
日本臨床内科医会	小松寛治	本荘第一病院院長
プライマリ・ケア教育連絡協議会	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター専任副センター長
在宅かかりつけ医を育てる会		
地域医療振興協会		
日本家庭医療学会		
日本総合診療医学会		
日本プライマリ・ケア学会		
日本老年医学会	三木哲郎	愛媛大学医学部老年医学講座教授
日本皮膚科学会	尹 浩信	東京大学医学部皮膚科学講座助教授

外科系関係学会

日本外科学会	廣橋一裕	大阪市立大学医学部附属病院総合診療センター長
日本臨床外科学会	万代恭嗣	社会保険中央総合病院外科副院長
日本手術医学会	大久保憲	東京医療保健大学医療情報学科感染制御学教授
プライマリ・ケア教育連絡協議会	養輪良行	聖マリアンナ医科大学病院救命救急センター長
在宅かかりつけ医を育てる会		
地域医療振興協会		
日本家庭医療学会		
日本総合診療医学会		
日本プライマリ・ケア学会		
日本脳神経外科学会	鈴木倫保	山口大学脳神経外科教授
日本整形外科学会	川口 浩	東京大学整形外科学助教授
日本泌尿器科学会	齋藤史郎	独立行政法人国立病院機構東京医療センター泌尿器科医長
日本耳鼻咽喉科学会	大久保公裕	日本医科大学耳鼻咽喉科助教授
日本眼科学会	天野史郎	東京大学医学部眼科学助教授
日本輸血学会	半田 誠	慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法部助教授

小児科系学会関係

日本小児科学会	中畑龍俊	京都大学大学院・発達小児科学教授
日本小児科医会	別所文雄	杏林大学小児科教授
日本小児救急医学会	羽鳥文麿	千葉県こども病院麻酔科集中治療科部長
日本外来小児科学会	柳沢正義	日本子ども家庭総合研究所
日本未熟児・新生児学会	田村正徳	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター教授
日本周産期・新生児医学会		

産婦人科系学会関係

日本産科婦人科学会	平原史樹	横浜市立大学大学院医学研究科産婦人科教授
日本産科婦人科医会	是澤光彦	東京都教職員互助会三楽病院産婦人科部長

地域保健・医療

へき地・離島診療所関連学会関係

プライマリ・ケア教育連絡協議会 名郷直樹 (社) 地域医療振興協会地域医療研修センター長

地域医療振興協会
日本家庭医療学会
日本プライマリ・ケア学会
日本総合診療医学会
在宅かかりつけ医を育てる会

中小病院・診療所関連学会関係

日本医師会 今村 聡 東京都医師会理事
全国自治体病院協議会 宮城良充 沖縄県立中部病院副院長
全国国民健康保険診療施設協議会 高山哲夫 全国国民健康保険診療施設協議会副会長

介護老人保健施設、社会福祉施設関連学会関係

日本療養病床協会 木下牧子 初台リハビリテーション病院院長

赤十字社血液センター関連学会関係

日本赤十字社 田所憲治 日本赤十字社血液事業本部経営会議委員

各種検診・健診関連学会関係

全国労働衛生団体連合会 福田崇典 社会福祉法人聖隷福祉事業団理事・保健事業部長
日本対がん協会 斎藤貴生 (財) 福岡県対がん協会会長

保健所関連学会関係

日本衛生学会 相澤好治 北里大学医学部衛生学公衆衛生学教授
日本公衆衛生学会 多田羅浩三 放送大学教授、徳永力雄 関西医科大学常務理事
全国保健所長会 角野文彦 滋賀県長浜保健所長
全国衛生部長会 納谷敦夫 大阪府健康福祉部長
衛生学公衆衛生学教育協議会 高野健人 東京医科歯科大学大学院健康推進医学分野教授

救急系学会関係

日本救急医学会 島崎修次 杏林大学教授・救急医学教授
日本麻酔科学会 花岡一雄 東京大学教授・麻酔科教授
日本臨床救急医学会 有賀 徹 昭和大学医学部救急医学教授
日本外傷学会 山本保博 日本医科大学附属病院高度救命センター教授
日本蘇生学会 浅田 章 大阪市立大学救急医学・集中治療部教授

精神科系学会関係

精神科七者懇談会：卒後研修に関する委員会

日本精神神経学会	飯森眞樹雄	東京医科大学精神医学講座教授
国立精神医療施設長協議会	平野 誠	国立病院機構肥前精神医療センターセンター長
精神医学講座担当者会議	小島卓也	日本大学医学部精神神経科学教授
全国自治体病院協議会	川副泰成	総合病院国保旭中央病院精神神経科
精神科特別部会		
日本精神神経科診療所協会	松下昌雄	西落合診療所所長
日本精神科病院協会	関 健	城西病院院長
日本総合病院精神医学会	保坂 隆	東海大学医学部教授

放射線科系学会関係

日本医学放射線学会	大久保敏之	東京大学医科学研究所放射線科助教授
日本超音波医学会	竹中 克	東京大学医学部附属病院中央検査部講師
日本核医学会	油野民雄	旭川医科大学放射線科教授

厚生労働省「医師臨床研修指導ガイドライン作成のための省内連絡会」

(座長)

大臣官房厚生科学課長 上田博三

(幹事)

大臣官房参事官(健康担当) 瀬上清貴
 医政局総務課医療安全推進室長 北島智子
 医政局指導課長 谷口 隆
 医政局指導課医療計画推進指導官 針田 哲
 医政局医事課長 中垣英明
 医政局医事課医師臨床研修推進室長 宇都宮啓
 医薬食品局血液対策課長 関 英一
 労働基準局安全衛生部労働衛生課長 阿部重一
 雇用均等・児童家庭局母子保健課長 佐藤敏信
 社会・援護局障害保健福祉部精神保健福祉課長 矢島鉄也
 老健局老人保健課長 三浦公嗣
 国立保健医療科学院次長 林 謙治

(担当者)

医政局総務課課長補佐 田原克志
 医政局総務課医療安全推進室医療安全対策専門官 平野静香
 医政局指導課課長補佐 宮本哲也
 医政局医事課課長補佐 中村泰久
 医政局医事課医師臨床研修推進室臨床研修審査官 村岡 亮
 健康局総務課地域保健室室長補佐 平子哲夫
 医薬食品局血液対策課課長補佐 中山 鋼
 労働基準局安全衛生部労働衛生課中央労働衛生専門官 武末文男
 雇用均等・児童家庭局母子保健課課長補佐 斎藤慈子
 社会・援護局障害保健福祉部精神保健福祉課課長補佐 渡辺真俊
 老健局老人保健課課長補佐 神ノ田昌博
 国立保健医療科学院公衆衛生政策部主任研究官 川南勝彦

指導ガイドライン執筆者及び執筆協力者一覧(五十音順)

平成18年 2月14日現在 (142名)

赤木将男	あかぎ まさお	近畿大学大学院医学研究科整形外科学助教授
浅田 章	あさだ あきら	大阪市立大学医学部附属病院救急医学・集中治療部教授
朝田 隆	あさだ たかし	筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御医学専攻精神病態医学教授
浅野嘉延	あさの よしのぶ	国家公務員共済組合連合会千早病院内科医長
油野民雄	あぶらの たみお	旭川医科大学放射線医学講座教授
天野宏一	あまの こういち	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科助教授
天野史郎	あまの しろう	東京大学医学部附属病院角膜移植部部长
有賀 徹	あるが とおる	昭和大学医学部救急医学講座教授
飯田知弘	いいだ ともひろ	福島県立医科大学医学部眼科学講座教授
家崎貴文	いえさき たかふみ	順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科助手
伊賀瀬道也	いがせ みちや	愛媛大学医学部老年医学講座助手
石川雅彦	いしかわ まさひこ	国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長
石木幹人	いしき みきと	岩手県立高田病院長
石黒 隆	いしぐろ たかし	いしぐろ整形外科院長
石塚達夫	いしづか たつお	岐阜大学大学院医学研究科総合病態内科学分野・附属病院総合診療部教授
伊藤健吾	いとう けんご	国立長寿医療センター研究所長寿脳科学研究部長
井上 肇	いのうえ はじめ	厚生労働省大臣官房国際課課長補佐(前医政局医事課課長補佐)
今川彰久	いまがわ あきひさ	大阪医科大学第一内科講師
今村 聡	いまむら さとし	東京都医師会理事
江村 正	えむら せい	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター専任副センター長
遠藤正之	えんどう まさゆき	東海大学医学部医学科内科学系助教授
尾内一信	おうち かずのぶ	川崎医科大学小児科学2教授
大内尉義	おおうち やすよし	東京大学大学院医学系研究科・医学部加齢医学講座・附属病院老年病科教授
大久保公裕	おおくぼ きみひろ	日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科助教授
大久保憲	おおくぼ たかし	東京医療保健大学医療情報学科感染制御学教授
大久保敏之	おおくぼ としゆき	東京大学医科学研究所・附属病院放射線科助教授
大澤真木子	おおさわ まきこ	東京女子医科大学医学部小児科学教室主任教授
大滝純司	おおたき じゅんじ	東京医科大学病院総合診療科教授
太田昌宏	おおた まさひろ	太田西ノ内病院総合診療科部長
大西健児	おおにし けんじ	東京都立墨東病院感染症科医長
岡田 定	おかだ さだむ	聖路加国際病院内科医長
小川純人	おがわ すみと	東京大学大学院医学系研究科・医学部加齢医学講座助手
奥村 徹	おくむら てつ	順天堂大学医学部附属順天堂医院救急部救急室長
小澤秀樹	おざわ ひでき	東海大学医学部医学科内科学系助教授
片山容一	かたやま よういち	日本大学医学部脳神経外科学教授
門野岳史	かどの たかふみ	東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科学教室講師
上裕俊法	かみさこ としのり	近畿大学医学部衛生学教室助教授

川尻真和	かわじり まさかず	愛媛大学医学部老年医学講座助手
川田浩志	かわだ ひろし	東海大学医学部医学科内科学系血液内科講師
川名正敏	かわな まさとし	東京女子医科大学附属青山病院長
川南勝彦	かわみなみ かつひこ	国立保健医療科学院公衆衛生政策部主任研究官
木澤義之	きざわ よしゆき	筑波大学附属病院総合診療グループ・医療福祉支援センター講師
木下牧子	きのした まきこ	医療法人社団輝生会初台リハビリテーション病院長
木原康樹	きはら やすき	神戸市立中央市民病院循環器内科部長
木村昭夫	きむら あきお	国立国際医療センター緊急部長
木村眞一	きむら しんいち	大阪厚生年金病院救急部長
日下隼人	くさか はやと	武蔵野赤十字病院小児科・臨床研修部長
久保恵嗣	くぼ けいし	信州大学大学院医学研究科・医学部内科学第一講座教授
黒坂大次郎	くろさか だいじろう	岩手医科大学眼科学教室教授
小島卓也	こじま たくや	日本大学医学部精神医学教授
小原克彦	こはら かつひこ	愛媛大学医学部老年医学講座助教授
小松眞史	こまつ まさし	市立秋田総合病院副院長
小宮根真弓	こみね まゆみ	東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科学教室講師
古森公浩	こもり きみひろ	名古屋大学医学部・大学院医学系研究科血管外科学教授
近藤 哲	こんどう さとし	北海道大学大学院医学研究科腫瘍外科学教授
斉藤史郎	さいとう しろう	独立行政法人国立病院機構東京医療センター泌尿器科医長
齋藤貴生	さいとう たかお	(財)福岡県対がん協会会長
佐伯秀久	さえき ひでひさ	東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科学教室講師
酒井 洋	さかい ひろし	埼玉県立がんセンター呼吸器科副部長
朔 義亮	さく よしすけ	雪ノ聖母会 聖マリア病院健康科学センター診療部長
佐々木崇	ささき たかし	岩手県立中央病院副院長
佐藤 誠	さとう まこと	筑波大学大学院人間総合科学研究科社会環境医学教授
佐野文明	さの ふみあき	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院血液・腫瘍内科副部長
澤口 毅	さわぐち たけし	富山市立富山市民病院関節再建外科部長
四宮謙一	しのみや けんいち	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・医学部整形外科教授
正田良介	しょうだ りょうすけ	国立国際医療センター総合診療科総合外来・教育部長
新保卓郎	しんぼ たくろう	国立国際医療センター研究所医療生態学研究部長 (前京都大学医学部附属病院総合診療部助教授)
菅谷 誠	すがや まこと	東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科学教室医局長
住田俊和	すみだ としかず	厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室主査
関 健	せき けん	城西医療財団 城西病院理事長・院長
關 博文	せき ひろぶみ	岩手県立中央病院脳神経外科教授
高倉義典	たかくら よしのり	奈良県立医科大学整形外科学教授・附属病院長
高橋一夫	たかはし かずお	島根大学医学部附属病院神経血液膠原病内科講師
高橋弘明	たかはし ひろあき	岩手県立中央病院医療研修科長
高林克日己	たかばやし かつひこ	千葉大学医学部附属病院企画情報部教授
高松英夫	たかまつ ひでお	鹿児島大学大学院医歯総合研究科・医学部小児病態制御学教授
高山哲夫	たかやま てつお	全国国民健康保険診療施設協議会副会長
竹中 克	たけなか かつ	東京大学医学部附属病院中央検査部講師
田所憲治	たどころ けんじ	日本赤十字社血液事業本部経営会議委員
田中克之	たなか かつゆき	聖マリアンナ医科大学脳神経外科学講師

田中純太	たなか じゅんた	新潟大学医歯学総合研究科第二内科医員
田中哲郎	たなか てつろう	国立保健医療科学院生涯保健部長
種田憲一郎	たねだ けんいちろう	国立保健医療科学院政策科学部主任研究官
田村浩一	たむら こういち	日本医科大学付属病院病理部助教授
常深祐一郎	つねみ ゆういちろう	東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科学教室助手
積田俊也	つみた しゅんや	東海大学医学部付属八王子病院血液内科・一般内科助手
寺本信嗣	てらもと しんじ	東京大学大学院医学系研究科・医学部加齢医学講座講師
中澤 誠	なかざわ まこと	東京女子医科大学医学部循環器小児科学教室教授
中田勝巳	なかた かつみ	環境省総合環境政策局環境保健部企画課保健業務室主査 (前、厚生労働省医政局指導課主査)
中村哲也	なかむら てつや	獨協医科大学病院光学医療センター内視鏡部門長・助教授
中村真潮	なかむら ましお	三重大学大学院医学系研究科循環器内科学
中村泰久	なかむら やすひさ	厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室臨床研修専門官
中山健夫	なかやま たけお	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野助教授
中山秀章	なかやま ひであき	新潟大学医歯学総合研究科第二内科医員
永井秀雄	ながい ひでお	自治医科大学消化器・一般外科学教授
名川弘一	ながわ ひろかず	東京大学大学院医学系研究科・医学部臓器病態外科学講座腫瘍外科学 ・血管外科学教室教授
名郷直樹	なごう なおき	(社) 地域医療振興協会地域医療研修センター長
二木芳人	にき よしひと	川崎医科大学附属病院呼吸器内科副医長
西川正憲	にしかわ まさのり	藤沢市民病院呼吸器科医長
西野 宏	にし の ひろし	自治医科大学耳鼻咽喉科学教室助教授
野田裕司	のだ ゆうじ	厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室臨床研修指導官
畑尾正彦	はたお まさひこ	日本赤十字武蔵野短期大学教授
春名眞一	はるな しんいち	東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科助教授
伴信太郎	ばん のぶたろう	名古屋大学医学部附属病院総合診療部教授
半田 誠	はんた まこと	慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法部助教授
肥塚直美	ひづか なおみ	東京女子医科大学医学部内分泌内科学(第二内科学) 教室教授
平原史樹	ひらはら ふみき	横浜市立大学大学院医学研究科・医学部生殖生育病態医学教授
廣橋一裕	ひろはし かずひろ	大阪市立大学医学部附属病院総合診療センター長 ・卒後臨床研修センター長
福井次矢	ふくい つぐや	聖路加国際病院長
福岡敏雄	ふくおか としお	名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学助手
福沢嘉孝	ふくざわ よしたか	愛知医科大学消化器内科助教授
福田崇典	ふくだ たかのり	社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団理事・保健事業部長
保坂 隆	ほさか たかし	東海大学医学部医学科基盤診療学系教授
前野哲博	まえの てつひろ	筑波大学附属病院総合臨床教育センター助教授
松村理司	まつむら ただし	洛和会音羽病院長
三木哲郎	みき てつろう	愛媛大学医学部老年医学講座教授
水木 泰	みずき やすし	山口県立病院静和荘院長
水嶋春朔	みずしま しゅんさく	国立保健医療科学院人材育成部長
箕輪良行	みのわ よしゆき	聖マリアンナ医科大学病院救命救急センター長
宮城良充	みやぎ よしみつ	沖縄県立中部病院副院長
三宅祥三	みやけ しょうぞう	武蔵野赤十字病院長

宮崎俊一	みやざき しゅんいち	国立循環器病センター心臓血管内科医長
宮崎正信	みやざき まさのぶ	長崎大学医学部・歯学部附属病院第2内科助教授
宮下修行	みやした なおゆき	川崎医科大学呼吸器内科学講師
三輪高喜	みわ たかき	金沢大学大学院医学系研究科・医学部脳病態医学助教授
村岡 亮	むらおか あきら	厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室臨床研修審査官
元雄良治	もとお よしはる	金沢医科大学病院集学的がん治療センター長
森内浩幸	もりうち ひろゆき	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部発生分化機能再建学教授
森川昭廣	もりかわ あきひろ	群馬大学大学院医学系研究科・医学部小児生体防御学教授
矢崎善一	やざき よしかず	信州大学大学院医学研究科・医学部循環器内科講師
山嵜達也	やまそば たつや	東京大学大学院医学系研究科・医学部耳鼻咽喉科学教室助教授
山田 治	やまだ おさむ	山口大学医学部保健学科病態検査学講座教授
山田正信	やまだ まさのぶ	群馬大学大学院医学系研究科・医学部内科系科講師
山本哲也	やまもと てつや	岐阜大学大学院医学研究科・医学部眼科学教授
横井則彦	よこい のりひこ	京都府立医科大学大学院医学研究科・医学部視覚機能再生外科学助教授
横手幸太郎	よこて こうたろう	千葉大学医学部附属病院第二内科助手
吉井文均	よしい ふみひと	東海大学医学部医学科神経内科学教授
吉澤弘久	よしざわ ひろひさ	新潟大学医歯学総合病院生命科学医療センター助教授
米倉修司	よねくら しゅうじ	東海大学医学部付属八王子病院助教授・健診センター長
和田 淳	わだ じゅん	岡山大学医学部第三内科医局長
渡邊孝宏	わたなべ たかひろ	東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科学教室講師
渡辺 毅	わたなべ つよし	福島県立医科大学医学部内科学第3教授